

1 下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。
なお、商品売買に関する取引は3分法を用いている。

現	金	小	口	現	金	当	座	預	金	普	通	預	金	
売	掛	金	貸	倒	引	当	金	建		物	土		地	
売		上	受	取	利	息	貸	倒	損	失	支	払	利	息

- a 取引銀行に預け入れている預金の利息 ¥100 が、普通預金口座に入金された。
- b 店舗を建てるため、土地 ¥8,900,000 を購入し、代金は登記料と買入手数料の合計額 ¥490,000 とともに小切手を振り出して支払った。
- c 全国銀行に普通預金として現金 ¥900,000 を預け入れた。
- d 得意先南西商店が倒産し、前期から繰り越された同店に対する売掛金 ¥70,000 が回収不能となったため、貸し倒れとして処理した。ただし、貸倒引当金勘定の残高が ¥80,000 ある。

2

沖縄商店の次の取引を入金伝票・出金伝票・振替伝票のうち、必要な伝票に記入しなさい。

取 _____ 引

/ 月 / 7 日 浦添商店に不用品 ¥2,700 を売却しなさい、未収金として処理していたが、本日現金で受け取った。 (伝票番号 No. 14)

♪ 日 沖縄郵便局で郵便切手 ¥36,000 を買い入れ、代金は現金で支払った。 (伝票番号 No. 19)

♪ 日 那覇商店に借用証書によって借り入れていた ¥220,000 を小切手 # 15 を振り出して返済した。 (伝票番号 No. 13)

18日 商品売買の仲介をおこない、仲介手数料 ¥61,000 を現金で受け取った。
 19日 岡山商店に対する買掛金の一部 ¥800,000 を、小切手を振り出して支払った。
 21日 店舗家賃の支払日につき、¥140,000 が当座預金口座から引き落とされた。
 26日 下関商店に次の商品を売り渡し、代金は同店振り出しの小切手で受け取り、ただちに当座預金とした。

R 品 1,000 個 @ ¥770 ¥770,000

29日 松江電器店から商品陳列用冷凍庫 ¥352,000 を購入し、代金は設置費用 ¥16,000 とともに、現金で支払った。
 31日 借入金 ¥1,520,000 の支払期日につき、利息 ¥15,200 とともに現金で支払った。

4 (1) 次の文の にあてはまるもっとも適当な語を、下記の語群のなかから選び、その番号を記入しなさい。

- ア. 商品売買取引で、仕入勘定・売上勘定・繰越商品勘定を用いて記帳する方法を ア という。
 イ. 決算にあたり、決算整理事項の明細を一覧表にまとめたものを イ という。
 ウ. すべての勘定の借方の合計金額と、貸方の合計金額は必ず等しい。これを ウ という。

語群

1. 分記法	2. 固定資産台帳	3. 棚卸表
4. 貸借対照表等式	5. 貸借平均の原理	6. 3分法

(2) 葦崎商店（個人企業）の下記の繰越試算表と資料によって、次の金額を計算しなさい。

- a. 当期純利益 b. 期末の現金残高（アの金額）

繰 越 試 算 表

令和〇年12月31日

借 方	元丁	勘 定 科 目	貸 方
(ア)	1	現 金	
4,459,000	2	売 掛 金	
769,000	3	繰 越 商 品	
1,062,000	4	備 品	
	5	買 掛 金	2,032,000
	6	前 受 金	334,000
	7	資 本	()
()			()

資 料

i	期首の資産総額	¥7,514,000
ii	期首の負債総額	¥2,994,000
iii	期間中の収益総額	¥9,104,000
iv	期間中の費用総額	¥8,102,000

5 旭川商店（個人企業 決算年 / 回 / 2月3日）の残高試算表と決算整理事項は、次のとおりであった。

よって、

- (1) 決算整理仕訳を示しなさい。
- (2) 精算表を完成しなさい。
- (3) 受取手数料勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。

残 高 試 算 表

令和〇年 / 2月3日

借 方	元 丁	勘 定 科 目	貸 方
315,000	1	現 金	
987,000	2	当 座 預 金	
500,000	3	売 掛 金	
	4	貸 倒 引 当 金	10,000
245,000	5	繰 越 商 品	
1,040,000	6	備 品	
	7	買 掛 金	362,000
	8	資 本 金	2,130,000
	9	売 上	7,190,000
	10	受 取 手 数 料	88,000
4,105,000	11	仕 入	
1,576,000	12	給 料	
720,000	13	支 払 家 賃	
240,000	14	広 告 料	
35,000	15	消 耗 品 費	
17,000	16	雑 費	
9,780,000			9,780,000

決算整理事項

- a. 期末商品棚卸高 ¥265,000
- b. 貸倒見積高 売掛金残高の3%と見積もり、貸倒引当金を設定する。
- c. 備品減価償却高 取得原価 ¥1,300,000 残存価額は零(0) 耐用年数は5年とし、定額法により計算し、直接法で記帳している。

$$\text{定額法による年間の減価償却費} = \frac{\text{取得原価} - \text{残存価額}}{\text{耐用年数}}$$